

令和6年度地域貢献プロジェクト事業報告書

キャンパス名 岩見沢校
代表者氏名 山田 亮

プロジェクト名	地域や学校と連携した野外教育プログラムの開発と実践
プロジェクトの概要	<p>地域活性化に取り組んでいる青少年教育施設と連携し、それぞれで抱えている問題を解決するための方法であるプログラムを開発・実践するものであった。計画段階では、NPO 法人とのプログラム実施協力をする予定であったが、調整が難航したため、今年度も昨年度と同様の実施体制をとった。青少年教育施設とは、地域住民対象の地域の自然環境を活かした防災教育プログラムとして「主体的・対話的で深い学び」のプロセスに焦点をあてて開発・実践し、現代的課題に対応した野外教育の実践と、それに関わる人材育成を目指すものであった。</p> <p>具体的に、青少年教育施設とは、国立日高青少年自然の家（以下、自然の家）であり、自然の家が取り組む青少年を対象とした防災教育プログラムの開発、プログラムの実施、教育効果の検証を行った。実際に、2024年8月に、自然の家において、小学校4年生から6年生を対象とした3泊4日の野外教育プログラムを行い、テント宿泊、野外炊事、沢登りなどを小学生が体験し、レジリエンスと言われる非認知能力がいかに獲得されたかという視点で、プログラムの効果測定を行い、その成否を防災教育の観点から検証した。昨年度に引き続き、中学校との連携も計画していたが、申請額よりも減額となったことと、先方との日程などの調整の関係で、今年度の実施は見送ることとなった。来年度については、日程や予算について、現時点で調整済みである。</p>
地域・学校・子ども等に還元した成果	<p>野外教育プログラム体験によって、子どもたちのレジリエンスが向上したという結果が得られた（表）。</p> <p>自然の家は、社会教育施設の機能があるため、本プロジェクトによるプログラム開発は、青少年を対象とした教育活動の発展につながる。特に、野外教育プログラムの体験により、現行の学習指導要領で主流となっている「主体的・対話的で深い学び」の学習方法を身につけることから、児童の教科学習のさらなる充実につながった。</p>
学生資質向上・教職資質向上のために果たした成果	<p>本プロジェクトに関わる学生は、野外教育を専門的に学んでおり、習得した知識や技術を活かして、実際の現場である地域や施設において活動を実践することにより、専門性を深めるとともに、教育活動に必要な実践力や指導力を向上させることができた。特に、活動自体の指導技術だけではなく、子どもに対するカウンセリング、グループの学習促進のためのファシリテーションなどを実践的に身につけることができ、大学正課授業における教育実習以上の効果がみられた。</p>
キャンパス及び大学への貢献	<p>地域活動や青少年教育の最新の現状を把握することができ、大学における教育活動や研究活動の一助となった。また、教員養成課程のカリキュラムにはない、学科独自のアプローチで、新しい教育プログラムの開発を行うことができた。また、今後、岩見沢校の授業「地域プロジェクト」の連携先となったり、学生の就職先の確保にもつながると考えられる。</p>